

# 容器承認書

原規規発第 2212197 号

令和 4 年 12 月 19 日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

理事長 小口 正範 殿

原子力規制委員会

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和 32 年法律第 166 号）第 59 条第 3 項及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則（昭和 53 年総理府令第 57 号）第 21 条第 1 項の規定に基づき、令和 4 年 11 月 29 日付け令 04 原機（環材）030（以下「申請書」という。）をもって申請のあった輸送容器については、同法第 59 条第 1 項に規定する技術上の基準のうち容器に関する基準に適合していると認められるので、同法第 59 条第 3 項の規定に基づき、下記のとおり承認します。

記

氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名

添付の申請書の写しに記載のとおり

承認容器として使用する期間

令和 4 年 12 月 19 日から令和 11 年 1 月 26 日まで

ただし、核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則（昭和53年総理府令第57号）及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する技術上の基準に係る細目等を定める告示（平成2年科学技術庁告示第5号）（以下「規則等」という。）の改正により、規則等に定める技術上の基準（容器に係るものに限る。）に適合しなくなった場合は失効する。

#### 承認容器登録番号

各容器につき以下のとおり

S※B2044（注）

（注）※は添付の申請書の写しの5.に記載された製造番号のうち、JM-を除いた部分の数字を指す。例えば、本体の製造番号がJM-1ならば、承認容器登録番号はS1B2044となる。

核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則（昭和53年総理府令第57号）第22条第2号から第5号まで、第8号及び第9号に掲げる事項

添付の申請書の写しの1.から4.まで及び7.に記載のとおり

# 容 器 承 認 申 請 書

令04原機(環材)030

令和4年 11月 29日

原子力規制委員会 殿

住 所 茨城県那珂郡東海村大字舟石川765番地1

氏 名 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

理事長 小口 正範

(公印省略)

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第59条第3項及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則第21条第1項の規定により、下記のとおり申請します。

記

1. 輸送容器の名称

JMS-87Y-18.5T型

2. 輸送容器の外形寸法及び重量

(1) 輸送容器の外形寸法

外 径 約 1.9 m

高 さ 約 2.0 m

(2) 輸送容器の重量

輸送容器 18.11t 以下

(3) 核燃料輸送物の総重量

輸送物 18.44t 以下

(4) 輸送容器の概略を示す図

添付図のとおり。

詳細形状は、本核燃料輸送物の核燃料輸送物設計承認申請書(令和4年7月13日付け令04原機(環材)021(令和4年9月8日付け令04原機(環材)024をもって一部補正))に係る別紙の(イ)―第C.1図から(イ)―第D.2図までに示されている。

(5) 輸送容器の主要材料

イ 容器本体及び蓋 ステンレス鋼

ロ バスケット ステンレス鋼、

ハ 緩衝体 ステンレス鋼、

3. 核燃料輸送物の種類

(1) 核燃料輸送物の種類：BU型核分裂性輸送物

(2) 輸送制限個数：制限なし

(3) 配列方法：任意

(4) 臨界安全指数：0

4. 収納する核燃料物質等の種類、性状、重量及び放射能の量

添付表のとおり。

5. 承認を受けようとする容器の製造番号その他の当該容器と他の容器を区別するための番号

No.	製造番号
1	JM-1
2	JM-2
3	JM-3
4	JM-4

(設計承認番号：J/2044/B(U)F)

6. 承認容器として使用することを予定している期間

令和11年9月20日まで

7. その他特記事項

- (1) 核燃料輸送物設計承認番号

J/2044/B(U)F

- (2) 輸送容器の保守及び核燃料輸送物の取扱いに関する事項

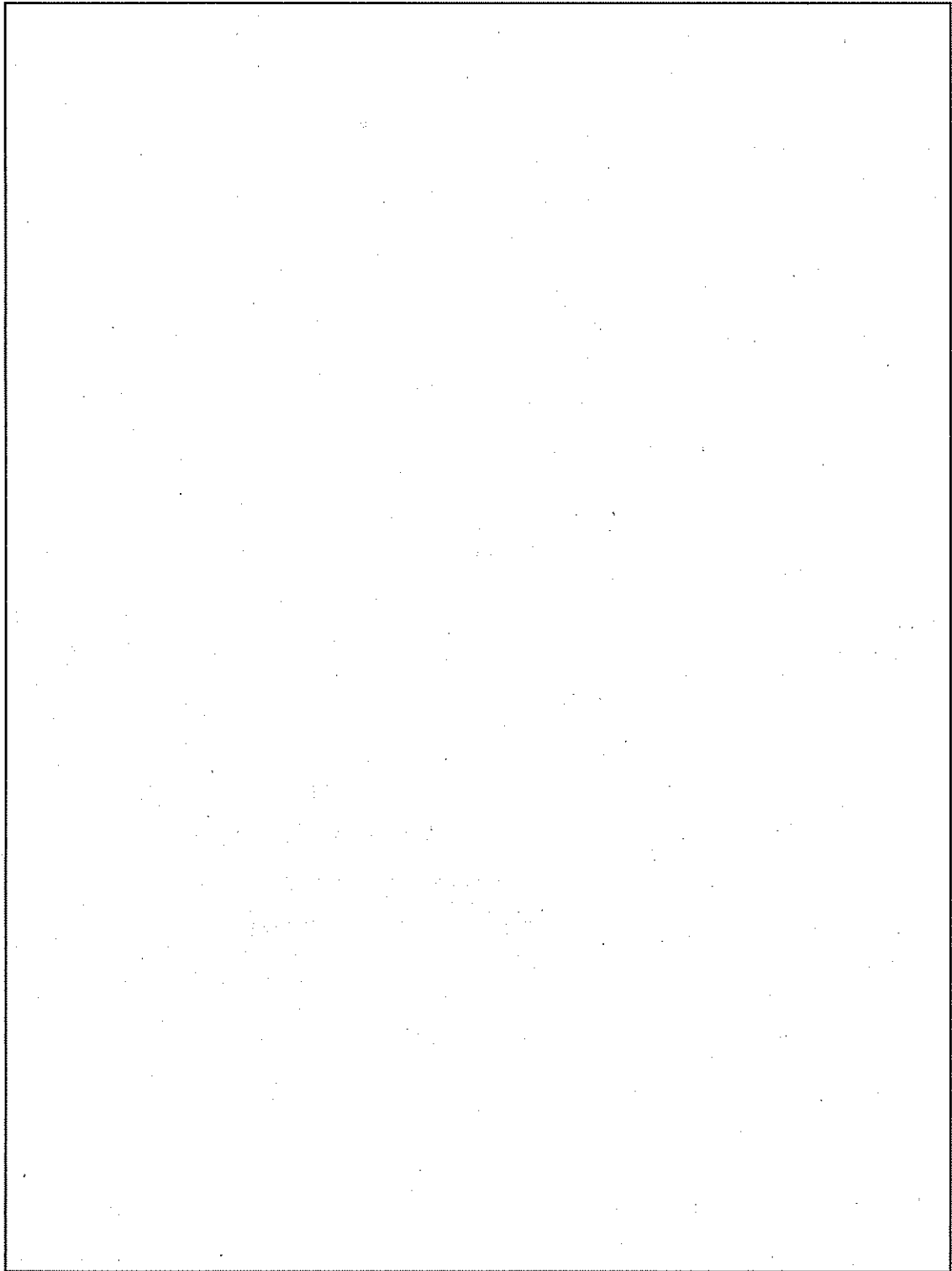
本核燃料輸送物の核燃料輸送物設計承認申請書(令和4年7月13日付け令04原機(環材)021(令和4年9月8日付け令04原機(環材)024をもって一部補正))の11に示す輸送容器の保守及び核燃料輸送物の取扱いに関する事項のとおり。

- (3) 承認容器として使用する期間に関連する情報

承認を受けようとする輸送容器の製作時期は表1のとおり。

表1 輸送容器の製作時期

No.	製造番号	製作時期
1	JM-1	1989/1/27
2	JM-2	1989/1/27
3	JM-3	1989/1/27
4	JM-4	1989/1/27



添付図 JMS-87Y-18.5T型核燃料輸送物外觀図

添付表 収納する核燃料物質等の種類、性状、重量及び放射能の量

種類	中濃縮ウラン燃料 (MEU) (使用済燃料)	低濃縮ウラン燃料 (LEU) (使用済燃料)	JMTR燃料フォロー (LEU)
項目	JMTR標準燃料要素 (MEU)	JMTR標準燃料要素 (LEU)	JMTR燃料フォロー (LEU)
原子炉形式	J M T R 板状燃料	J M T R 板状燃料	J M T R 板状燃料
全装荷数 (体/基)	計30 以下	計30 以下	計30 以下
初期値	$^{235}\text{U}$ 濃縮度 (wt%)		
	$^{235}\text{U}$ 含有量 (g/体)		
	U-含有量 (g/体)		
	燃焼度 (%)		
	冷却日数 (日) *		
性状	固体	固体	固体
放射能の量 (TBq/30体)	ウランアルミニウム分散型合金	ウランシリコニアアルミニウム分散型合金	
材質	燃料芯材 被覆材、側板	アルミニウム分散型合金 アルミニウム合金	
発熱量 (kW/30体)	1.98	2.80	2.40
			1.88
			1.61

・一つの輸送容器への核燃料物質の収納方法は、1種類の燃料による単独装荷、若しくは複数種類の燃料による混合装荷とする。

・収納物表面から1m離れた位置での空気吸収線量率は1Gy/h以上

\*: 輸送物の設計を行う上で、設定した期間であり、今後、新しく使用済燃料となるものはないことから、運搬予定の燃料の冷却日数は最小でも  日以上となっており、令和4年8月現在の放射能強度は  減少している。